



コードエイト

R18
ADULT
ONLY



Attack on Titan
Fanbook
presented by Affix



コ ー ル ト イ ン ト

本書は成人向けです。未成年の閲覧・所持を禁じます。

リヴァハン過去捏造話です。

私の頭の中から
飛び出てくる
どうしようもない話を
聞いてくれるからかな



それとも…

背中を預けあったり
していたからかな

そんな日々が
続いていたから

つい零れてしまったんだろう





私ね

いつか海が
見たいんだ

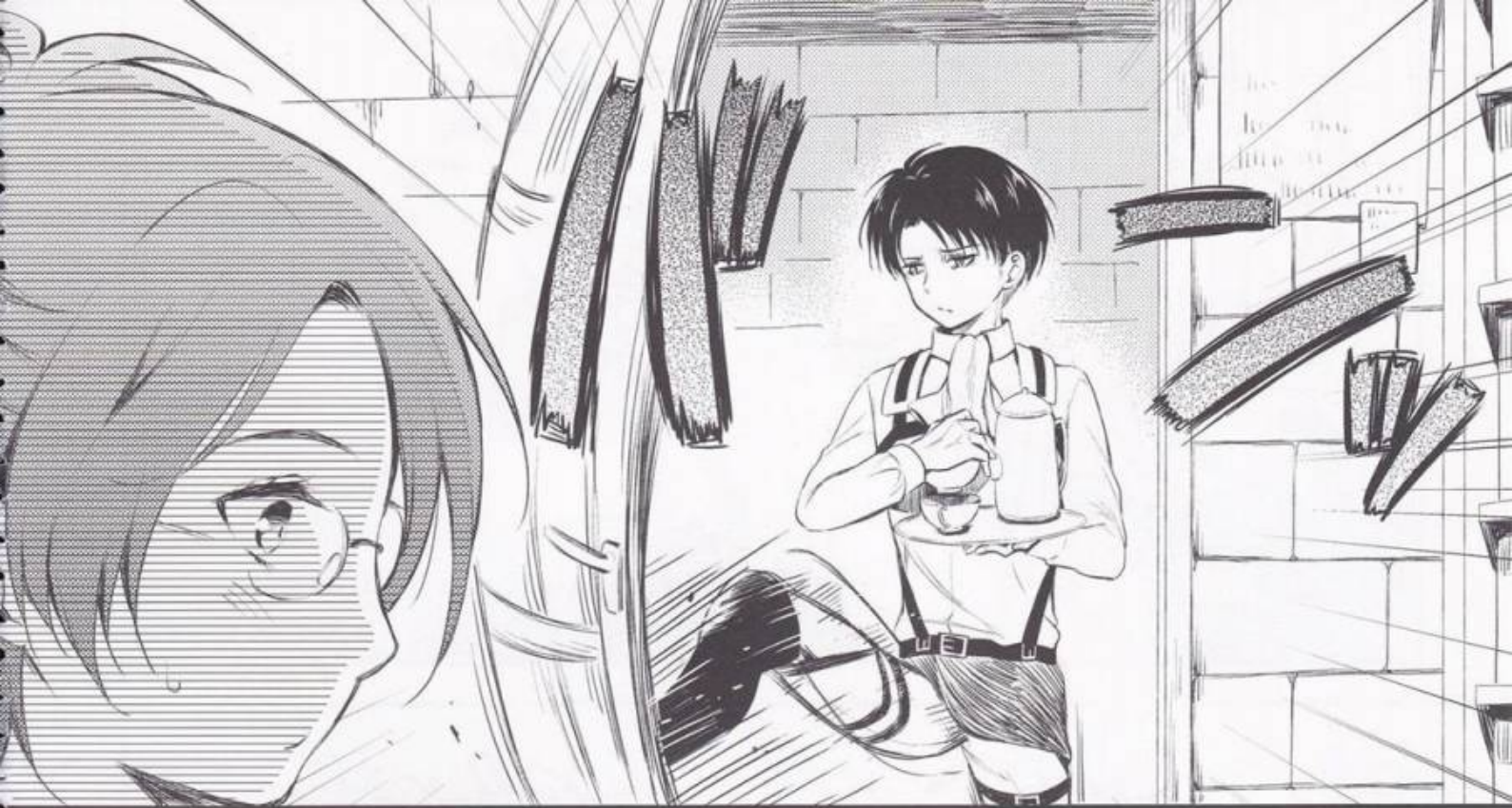
その時は
一緒に見ようね
リヴァイ

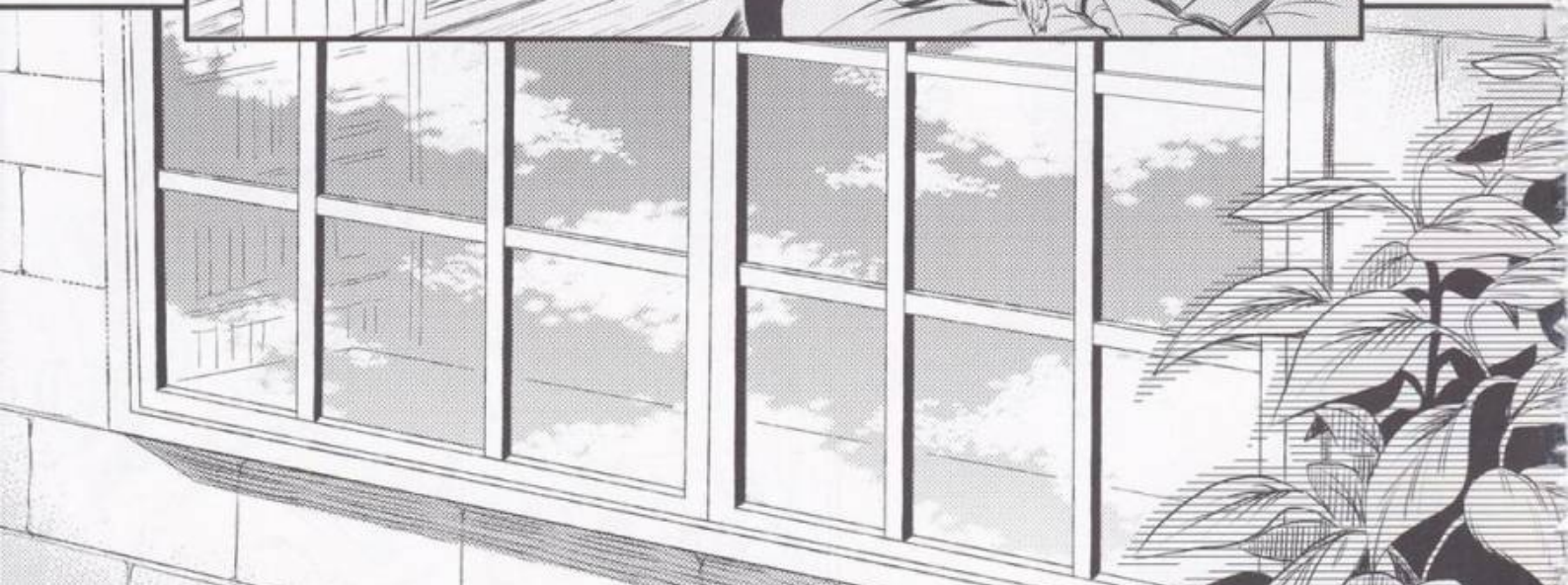


海？

壁の外の世界に
あるって言われてる









ほろっ

二人とも
疲れた顔して



ガチャ

おや



うっっっ

こいつの与太話に
付き合ったら
こんな時間だ



バカを言うな
ナナバ

ミケ
やほ

すんすん

色っぽい理由でも
あるのかな



ふふふ
仲がいいんだね



まだ話は
終わってないよ
リヴァイ!!

ここから私の
考察タイムだ!!

俺は疲れてる
続きはこいつらにでも
付き合ってもらったら
どうだ





ほう

外の世界の話だね



あいつの話は
クソ長いんだ

……ああクソが



まあ？

ちっとも良くねえ

良かったじゃないか



外の世界の話は
禁忌のような
ものだ

湯冷めするじゃ
ねえか…



あの子は賢いから
知っても口を噤んだ

心の中に芽生えた
好奇心を胸に
燃やし続けながら



彼女のように
好奇心を持って
接する人が居たとして

そういう人間に
対する
風当たりは強い



いつか芽が出るのを
待っていたんだよ




…てめえの話は
よく分からん

だが

それはまるで
あいつの秘密みたいだな



秘密だったのさ

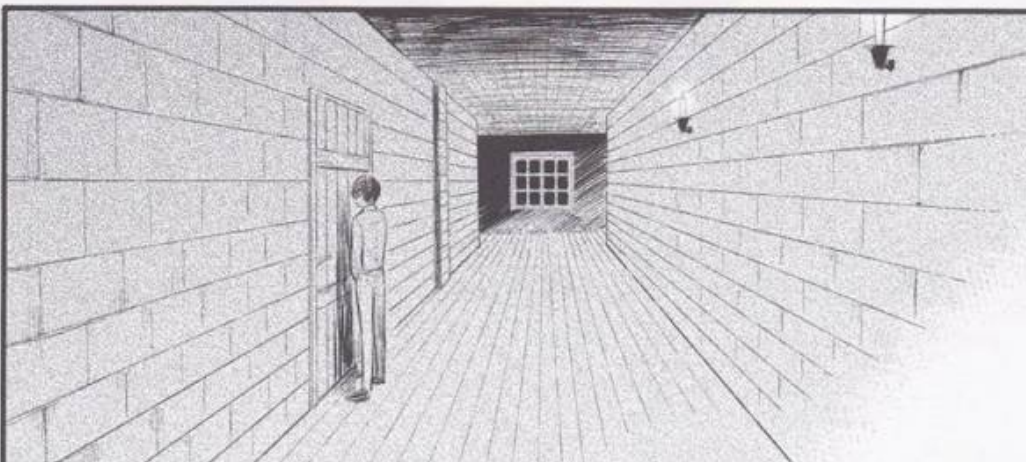


感情が溢れて
しまったんだろうね

あの子は君には
隠せなかったみたいだ



隠す気など
さらさら無かったのかも
しれないが



彼女は「君と」
外に行きたいのさ



あれから気になって
また文献を
漁ってみたんだ



おっリヴァイ
いいところに



でも
憲兵団の書庫には
もっといい本が
あるかもって思うとさ

結構
歯がゆいよね!



おっ?

わあっ!?



リヴァイ…？

どんな気持ちだ

俺が…



何も知らねえ
マヌケな面して
てめえの分かりにくい話を
聞いてたとき

てめえは
どんなつもりだった



幸せだったよ





ただ幸せだった

こんな日がずっと
続くんじゃないかって
錯覚するくらい



一緒に話した事や
あなたの反応を
思い出しては…

無い心臓を滾らせた



あなたと
離れた後もね



リヴァイに
聞いて欲しいんだ

ねえリヴァイ
もっと話そうよ



……分かった



てめえのペースに
いちいち
付き合ってもらえん

気早ええ!!

リヴァイ?
まだ海には
着いてないよ!?



私の胸なんか見て興奮するの…？









黙れるじゃねえか



…ハンジ

ぬる



先に謝っとこ

くんに

くんに

くんに

ヌキョ

ヌキョ

すり

ぴん



え…?

…あ

かあ



入らなかつたら
ごめんね

大丈夫だ
どうにかする

どうにかって

あと
気持ち良くなかつたら
ごめん

…てめえは

ハッ

にす

にす

びく





くさしい...

…おいハンジ
大丈夫か

すげえ
あつい…

ねえリヴァイ

何だ?

…気持ちいい?



ヤッ!

ガッ



はま。

は。

……

は…



はー
良かった!

女に生まれて
良かったよ

ホフッ



…気持ちいい

はま…

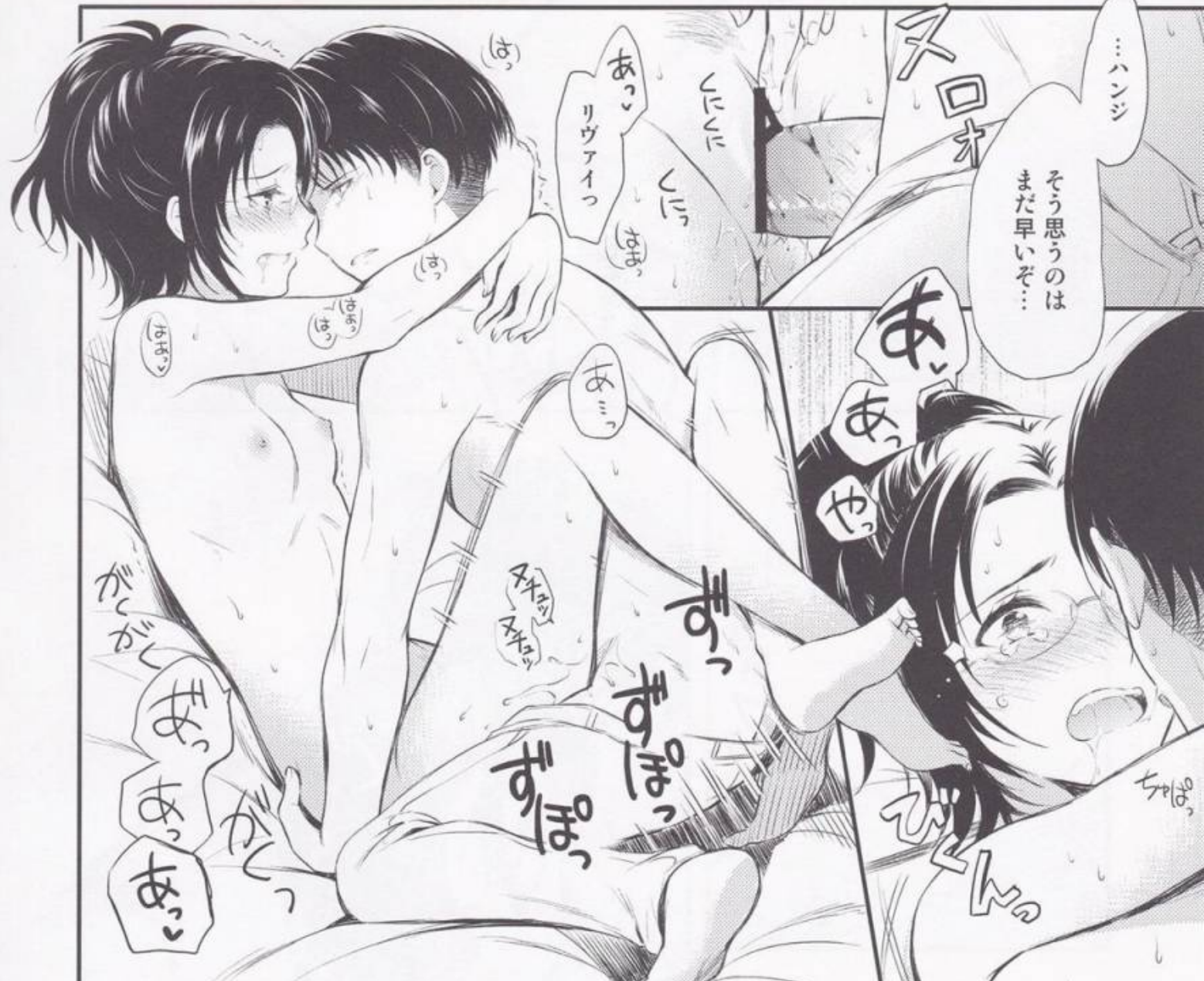
ぐいっ



ちゅん

へへ

ありがとね
リヴァイ



…ハンジ

そう思うのは
まだ早いぞ…

フロオ

あーっ
リヴァイっ

ジュジュ

しゅん

あ

あ

や

あ

あ

あ

か

あ

ちゅん

あ



はっ

はっ

はっ

はっ

はっ
はっ
はっ
はっ
はっ
はっ



リヴァイ……っ

はっ

はっ

はっ



はっ

うわ……
これ……っ

わ……っ

はっ

リヴァイのっ

す……っ

はっ

はっ

お
奥まで……

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ
入っちゃって……っ

はっ

はっ

抜ける……っ

はっ
ハンジ
暴れるな

はっ

はっ

はっ

はっ
や……っ

はっ
や……っ

はっ
お……

ギ

ギ

ギ

ギ

ギ

はっ

はっ

はっ





ねえ
リヴァイ
もしね

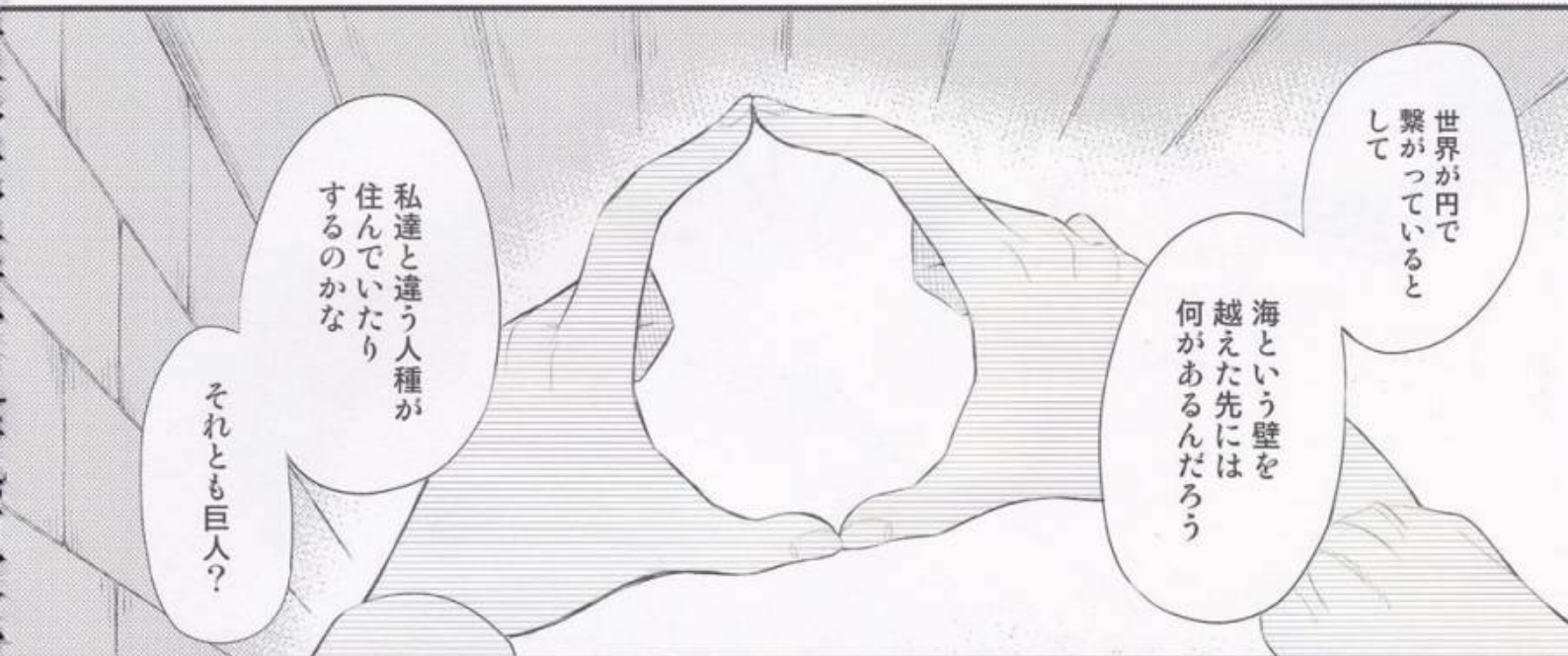




まるで
壁みたいだね



海が
陸地の周りを
囲んでいるとしたら…



世界が円で
繋がっていると
して

海という壁を
越えた先には
何があるんだろう

私達と違う人種が
住んでいた
するのかな

それとも巨人？



あ
そうだリヴァイ



考えれば考えるほど
果てがないね

肩を出すな
風邪ひくぞ



他の人には
黙っておいて
くれるかな



まだ何かあるのか…

今日はこれで最後

…海の話は所詮
仮説に過ぎないんだ



頼むよ



二人の秘密だね



んなもん
聞きたい物好きなんて
居ねえだろ

じゃあ
リヴァイは
物好きだ

あ？

へへ

さーてと!

リヴァイは
優しいね!

茶化してんじゃねえよ
クソメガネ

違うよ?

今日も元気に
調査と行きますか

ハンジ

はしゃくな
転ぶ

嬉しいからだよ

ねえリヴァイ
私ね

いつか
海が見たいんだ

その時は
一緒に見ようね

そこでまた
話の続きをしよう

ハンジさんハンジさん言っていたら本ができていました。
よもや進撃にハマるなどとは思わず
ハンジさんという素敵なお眼鏡に心を奪われ
そして流れ着いた先はリヴァハンという名のリゾートでした…

ハンジさんが世界のいろんな事とにかく興味がある人で
そんなお話を眉間に皺寄せながら聞いてあげる兵長という妄想が
自分の中で熱いです。
巨人の居ない世界のハンジとかすごく見てみたいですわね。
二人とも生き残っておくれ～
リヴァハンは可愛いなあ。可愛いなあ。

読んで頂いてありがとうございました。ではでは。

ワールドエンド

発行日：2013/10/27

発行：Affix/はーる

pixiv：7640001

Mail：affix_hr@yahoo.co.jp

printed by ねこのしっぽ